

之と記してある。柳屋の父某、その城北の事に及ばぬを慨し、別に城北賦を作つたのであるが、それには年月も署名もない。

コマツジヨウバン 小松城番 延寶七年九月十日新設したのを初とし、一番は前田權佐恒知・岡島市郎兵衛元爲、二番前田五左衛門弘直・永原宇右衛門孝貞、三番前田真之助知頼・西尾與三右衛門長頼が二人宛毎年三月十五日に交代し、小松に詰めて勤めることになつた。この制は後代まで傳はり、六人の中の三人は前田氏のものを探る例であつた。

コマツチャ 小松茶 前田利常の小松に隠棲した頃、長保屋と稱したる長谷部理右衛門は、藩内に消費する茶が多く他の供給を仰ぐを憂へ、山城・近江より種子を輸入して之を郡内に栽培したるに、利常はその金平産に金の煎、瀬産に谷の昔の銘を興へた。享保中二世理右衛門、近江武佐に至りその製茶を購入し、自國産のものと共に領内に賣出して各壺を博した。現に傳ふる茶銘妹村・青山・中戸等は、皆江州の村名である。安永中小松の茶業者は長保屋を筆頭とし、北市屋・綿屋・三日市屋・若松屋・大野屋・紺屋・金屋等があつて、藩は之に對し口錢を徴した。文化十年長保屋等五人は今江・梯出村の二人と共に茶問屋を營まんことを請ひて許され、問屋仕法習なる規約を設けた。嘉永中近江甲賀郡朝宮村の茶師磯五郎來つて信樂風の製茶法を傳へ、次いで慶應に入り長保屋はまた甲賀郡瀬村の職工清兵衛・龜吉二人を聘し、宇治風の茶を製し、安宅港より致賀を経て兵庫に搬出し、加賀茶の名譽を擧げた。

コマツホウノウケンキ 小松奉納軍記 ↓

ホウノウケンキ 奉納軍記。

コマツマチブギヨウ 小松町奉行 能美郡小松の町奉行で、寛永十七年内藤清兵衛・今枝與右衛門二人が命ぜられたに起り、その後連綿したが、寛文二年鹽川安左衛門が之に任ぜられてから一人役になつた。

コマツヤサシチ 小松屋左七 金澤河原町に住する小島商であつた。大槻朝元の越中五ヶ山に流された後、左七は朝元に對する書狀書物の仲介を爲した罪により、寶曆四年閏二月特に死を赦して追放代三ヶ年禁牢の刑に處せられた。諸書に左七が朝元の配所を尋ね、小刀を提供して自殺するを得しめたと記するのは、岩淵村の百姓小助が朝元に依頼されて之を買ひ興へたことの誤である。

コマツヤシロベエ 小松屋次郎兵衛 ↓ホウダイボウ 賈代坊。

コマツヤフリ 小松屋ふり 金澤淺野川川除町小松屋與四兵衛の女で、藩士大野木克明の僕六助の妻であつた。享保六年五月盜賊増内、藩からその町内に預けられたが、與四兵衛勤番の日に逃走して、與四兵衛は爲に入牢を命ぜられた。依つてふりはその後苦心して賊を探ね、閏七月十九日自ら之を捕へた。藩乃ち與四兵衛を赦し、翌年四月廿八日公事場奉行から小判十兩をふりに賞賜した。

コマドウタウゲ 護摩堂峠 能美郡白峰の太田から、越前大野郡御所、原に越える國境の峠。

コマノ 高麗野 石川郡木津の地内にある。享和の頃里人此の野を開墾して古刀を得た。この地を續日本紀寶龜七年四月丙午の條に見える、越前國江沼・加賀二郡に漂着した高麗

人を埋葬した地であらうといふ説は、全く牽強であらう。

コマヒコ 小舞子 能美郡濱開發の地内なる海濱。明治末年より海水浴場としてこの名を稱する。

コマヤク 小間役 ↓ヤクギン 役銀。

コマルヤマ 小丸山 鹿島郡七尾に在る。氣多本宮の舊社地で、後に前田利家が小丸山城を築いた地である。

コマルヤマジヨウ 小丸山城 天正九年八月前田利家が、織田信長から能登に封ぜられた後、小丸山に築いて居城とした。その地小丘をなし、北面すれば七尾灣を距て、能登島を望むことができる。その麓所、口・府中二區に跨つて市區を劃し、之を七尾と名づけ、城を七尾城ともいふことになつた。蓋し畠山氏舊城から名を採つたのであるが、その相距ること遠い。城郭の設計は、村井又兵衛長頼・片山伊賀延高二人をして之に當らしめ、工事の監督は延高をして爲さしめたこと、利家の消息によつて知られる。然るに利家夜話に、長頼の尾添温泉に澡浴した間に、延高獨繩張を行つたから、利家は之を喜ばず、長頼を召して計費を改めしめたといふものは誤である。利家夜話が利家の直話を記する書であるに拘らず、かくの如き誤謬あるは、後人の攪入した記事があるからであらう。天正十一年利家の尾山城に移るに及び、前田安勝・その子良繼・高島定吉・中川光重等之を守り、慶長二年前田利政こゝに移つたが、五年その封を沒收せられるに及び、利長は良繼と大井直泰を置いた。十五年良繼歿して子知好之に代り、大坂兩度の役には知好出陣して、大井直

泰・三輪吉宗留守し、後寛永十六年廢城となつた。この城は越登賀三州志故墟考に『本二三丸の所山二段に高低あり。總邊は平地。方四五十間許の所は山の高さ十四五間あり。又二十間に八十間許の地あり。皆平地より高きこと七間許也』とある。

コマルヤマシメイグウキ 小丸山神明宮記 一卷。天保四年十一月師田祐吉著。小丸山神明宮とは、今の金澤野町泉野神社のこと、本書はその祭神及び社歴に就いて細叙する。

コマワタリ 駒渡 珠洲郡木郎郷に屬する部落。

コマキアキトラ 駒井鑑虎 通稱小右衛門。小松に住して彫金の技を好み、屢前田利常の命に應じて刀劍の裝具を製した。子孫小右衛門貞次・小右衛門元次・久兵衛元直・重次郎元明・吉右衛門貞直・小右衛門貞明相傳へて彫金を試みたが、之を以て生業にしたのではなかつた。貞明の子甚右衛門貞歴の時、初めて金澤に移り、後藤久清の門に入つて白銀職になつた。その子甚助元申は後藤東乘に學んで巧手といはれ、次代久次郎元廣は、文化四年加賀藩の御細工者となり、その養子元定は技未だ熟せずして藩の大砲方に轉じた。

コマキセイアン 駒井齋庵 諱は定勝、本姓は柴田氏。藩の御醫所付同心にして祿十八儀を受けた柴田喜太夫の家に寄食して居た。後齋庵は京師に勤學して醫を修めたが、常に皇威の振はざることを歎き、且つ長州侯の能く王事に力を致すを歎慕し、我が侯も亦此の如くならんことを冀うた。文久三年五月姊小路公知の賊の爲に朔平門に傷つけられた時、